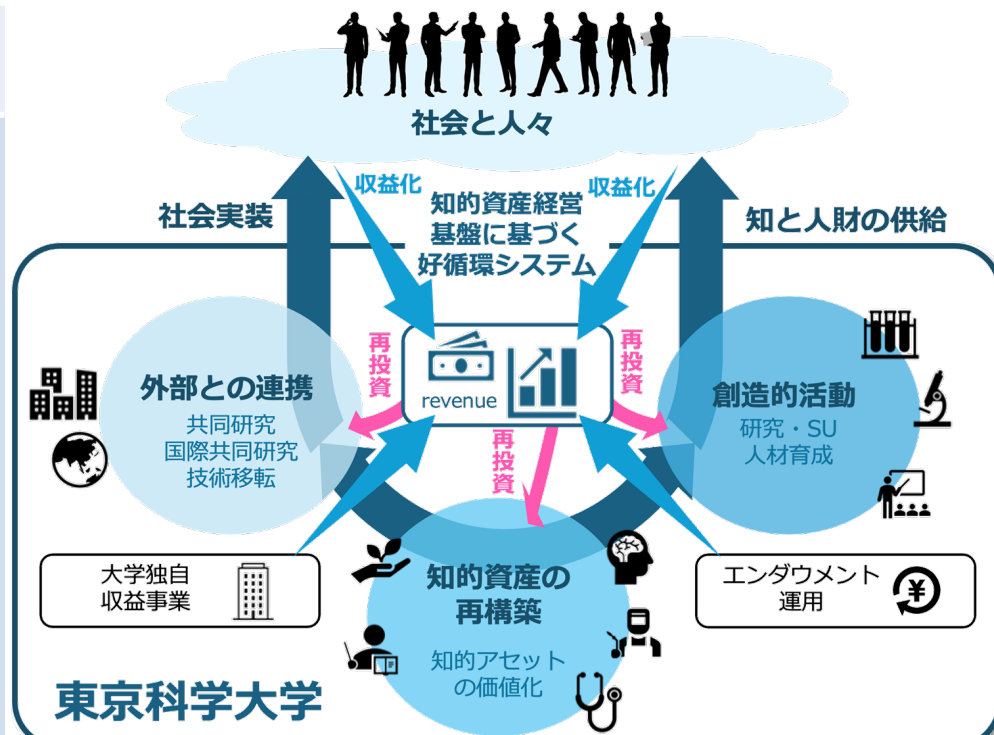


東京科学大学の経営改革構想

科学の進歩と、人々の幸せと。

大学全体の改革ビジョン

- 東京工業大学と東京医科歯科大学は、『「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探究し、社会とともに新たな価値を創造する』をミッションに、2024年10月に『東京科学大学：Science Tokyo』として生まれ変わる。新大学では、「善き生活、社会、地球をつくりあげる大学」をビジョンに、国際水準を超越した大学を実現するため、一法人一大学の国立大学で史上初となる、理事長・学長（大学総括理事）体制など、抜本的なガバナンス改革を実現する。
- 財務・経営基盤の強化のためには、以下の基本方針に基づき、科学の力の社会への還元強化を目指した『知的資産経営基盤に基づく好循環システム』の実現と、それに伴う行動変容・意識改革が必須であることから、本事業の下、右図に示す3つの取組を遂行する。



『知的資産経営基盤に基づく好循環システム』とは大学の有形、無形の知的資産を最適な時と場所で活用することで、社会に新たな価値をもたらし、その結果大学が創出する知的資産が増強される仕組み

Science Tokyo財務・経営基盤の強化に向けた基本方針

- ①理事長・学長体制による業務の権限と責任の分担による強固で挑戦的なガバナンス体制
- ②多様なステークホルダーとの連携・協働体制の構築
- ③ガバナンス改革による外部資金収入と基金の拡大
- ④教育研究活動全体を俯瞰した学内資源の再配分
- ⑤大学統合を好機とした全学的な組織改革

取組①：知の価値の顕在化・具現化に向けた財務基盤の形成

取組②：知の価値化を牽引するシンクタンク機能の整備

取組③：知の価値を最大化するための環境整備

取組① 知の価値の顕在化・具現化に向けた財務基盤の形成

補助金活用額：44,650千円/R6年度

成果目標：

独自基金開設と寄附金獲得の拡充・強化

取組概要：

1) 独自基金の設置に向けた運営方針会議による財務運営体制の整備

- ・準特定国立大学法人制度に基づく運営方針会議の早期設置と独自基金の設置・運用を開始する。

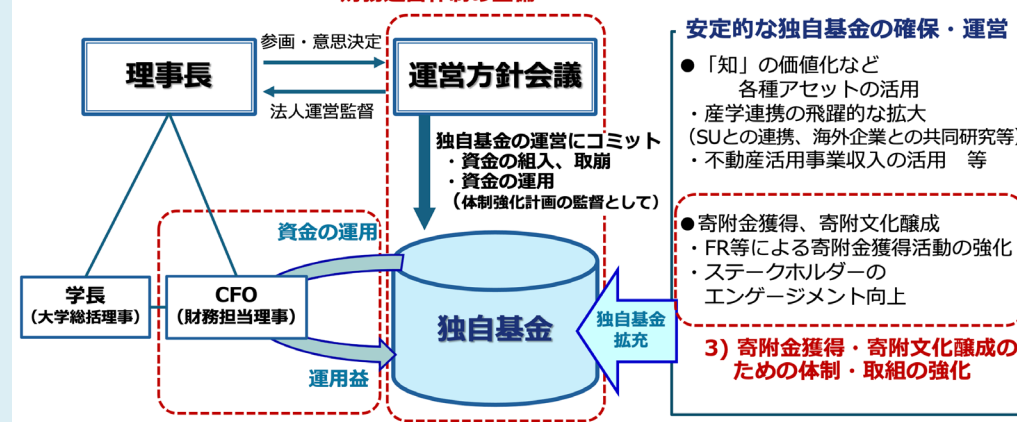
2) 独自基金の運用を見据えた資金運用の高度化

- ・現在展開中の大型不動産活用事業から得られる収入の活用も視野に、Science Tokyoの独自基金の設置方針を策定する。
- ・財務基盤強化に向け、独自基金の設置方針を踏まえた基本ポートフォリオを策定、資金運用を開始する。

3) 寄附金獲得・寄附文化醸成のための体制・取組の強化

- ・寄附者の属性に対応したファンドレイザーの段階的増員等により寄附金獲得体制を抜本的に強化する。
- ・ステークホルダーのエンゲージメント向上を図るための取組を通じて寄附文化の醸成を図り、従来にない規模での寄附金獲得につなげる。
- これまで十分な手当てができていなかった海外の修了生や企業、篤志家へのアプローチに向け、コンタクト先データの整理・管理を徹底
- 年間50万人の外来患者を有する大学病院利用者へのアプローチ

1) 独自基金の設置に向けた運営方針会議による財務運営体制の整備



2) 独自基金の運用を見据えた資金運用の高度化

KPI① 独自基金運用のための体制等整備

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
・運営方針会議の設置	・基本ポートフォリオ策定	・独自基金設置方針の策定	・独自基金としての運用開始

KPI② 寄附金獲得額

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
5.4億円	7.0億円	8.5億円	10.0億円

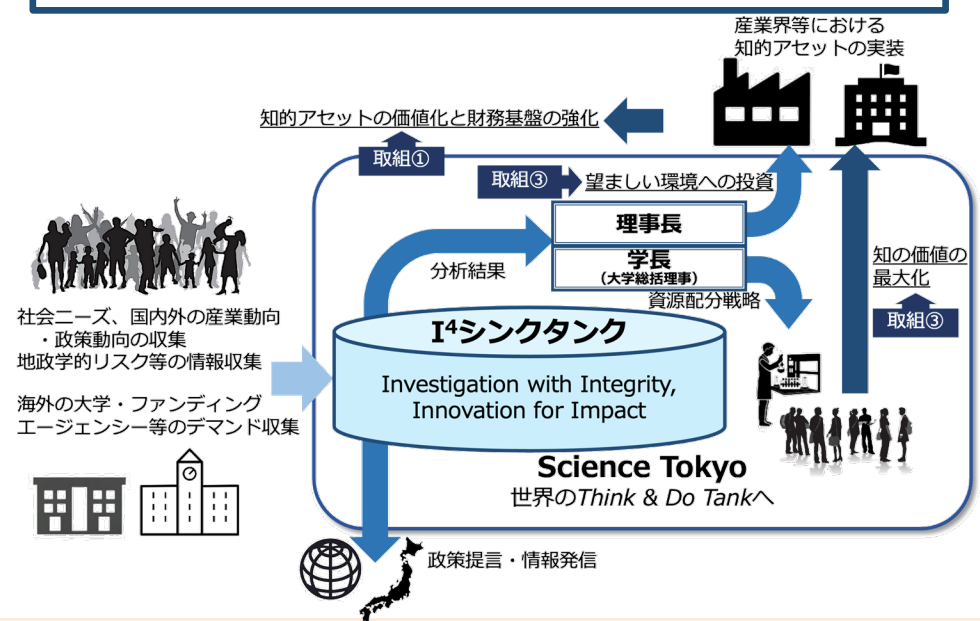
取組② 知の価値化を牽引する シンクタンク機能の整備

成果目標：
I⁴シンクタンクによるグローバル視点での
知のアセット分析と価値化戦略の立案

取組概要

- 1) シンクタンク組織の設置とネットワーク構築
 - ・専門領域を持つ研究者等で構成されるシンクタンク組織を整備するとともに、国内外の他のシンクタンク組織とのネットワークを確立する。シンクタンク分析結果を政策提言へ発展させる。
- 2) シンクタンクによる分析とScience Tokyo 執行部による戦略策定
 - ・学内の「知」や「技術」を学術的・技術的視点から分析するとともに、国内外の産業界、行政等の動向調査や地政学的リスクを含めたリスク分析等を実施。知の価値の最大化のための戦略策定につなげる。
- 3) 海外有力大学との国際共同研究・国際産学連携の推進に向けた情報収集・分析とそのため海外拠点設置・運営
 - ・地球規模の課題解決に当たるために、海外有力大学との共同研究や国際産学連携の戦略的調整を担う海外拠点を複数設置する。
- 4) シンクタンク機能の効果の情報発信とシンクタンク人材養成プログラムの検討
 - ・シンクタンク機能の効果・有用性を普及するとともに、シンクタンクスキルを有する人材を養成するプログラムについても検討を開始する。

補助金活用額：102,500千円/R6年度



KPI① ディープテックシンクタンク組織の発足と発展

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
・大学シンクタンクに必要な機能の整理 ・シンクタンク組織発足	・大学シンクタンク機能の精緻化	・大学シンクタンク機能の学内定着	・学外向けシンクタンク情報提供とシンクタンク機能サービス開始

KPI② 最先端研究の潮流やニーズの動向を把握するための新規海外拠点設置

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	・戦略的調査・調整を担う海外拠点の新規設置準備	・新規海外拠点：1拠点	・新規海外拠点：2拠点

取組③ 知の価値を最大化するための環境整備

補助金活用額：77,500千円/R6年度

成果目標：

知の価値の最大化を持続的に支える環境の整備と知的資産に基づく収入増大

取組概要：

1) 知的アセット利活用情報基盤の整備

- ・ 知的研究・教育・臨床等活動の伴う成果・データを価値に転換し利活用するための情報基盤構築や専門人材の確保等インフラを整備

2) 知的資産の価値化を担うグローバルイノベーションディベロップメント組織を形成

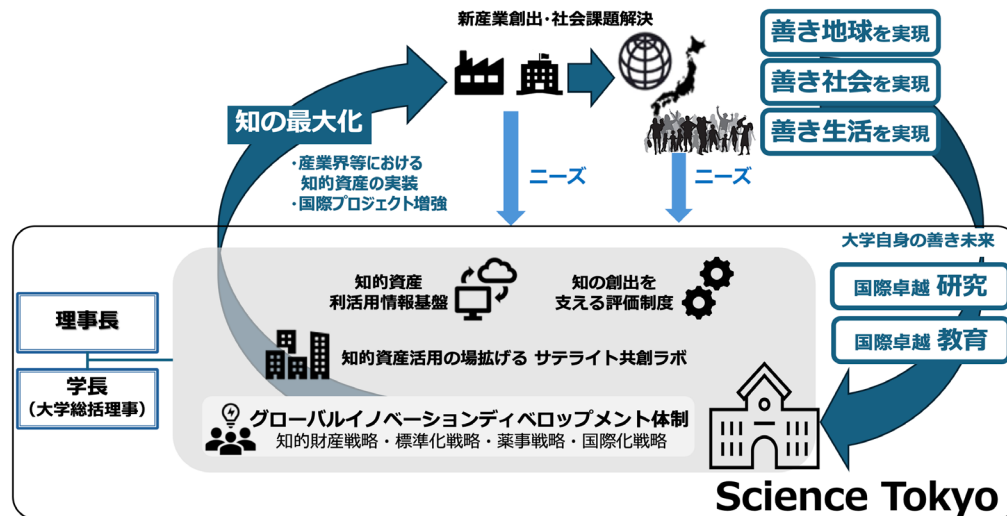
- ・ 既存のイノベーション推進体制（知財管理・契約・リスクマネジメント等）に、知財戦略、標準化戦略、薬事戦略、国際化戦略、ビジネスモデルの策定等にかかる機能、さらには国際プロジェクトの増強に向けた海外研究者受け入れ支援体制を追加することで、成果の実装を着実に導くイノベーション創出推進チーム体制を強化

3) 知的資産の活用場を拡大：サテライト共創ラボの整備

- ・ 大学のキャンパス外（企業、研究機関、地方公共団体、医療機関、介護施設等）において、大学研究者が研究を行える環境を整備

4) 知的資産が持続的に生み出される文化の醸成

- ・ SUや大型産学連携研究を実施する研究者の特質に合わせた評価システムの導入・定着として、インパクト型の研究者評価制度・インセンティブ設計を導入



KPI① 民間企業等からの共同研究費収入の伸び率 (前年度比)

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
2%	4%	5%	6%

KPI② 知的資産の価値化に基づく収入の伸び率 (前年度比)

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
5%	7%	9%	10%

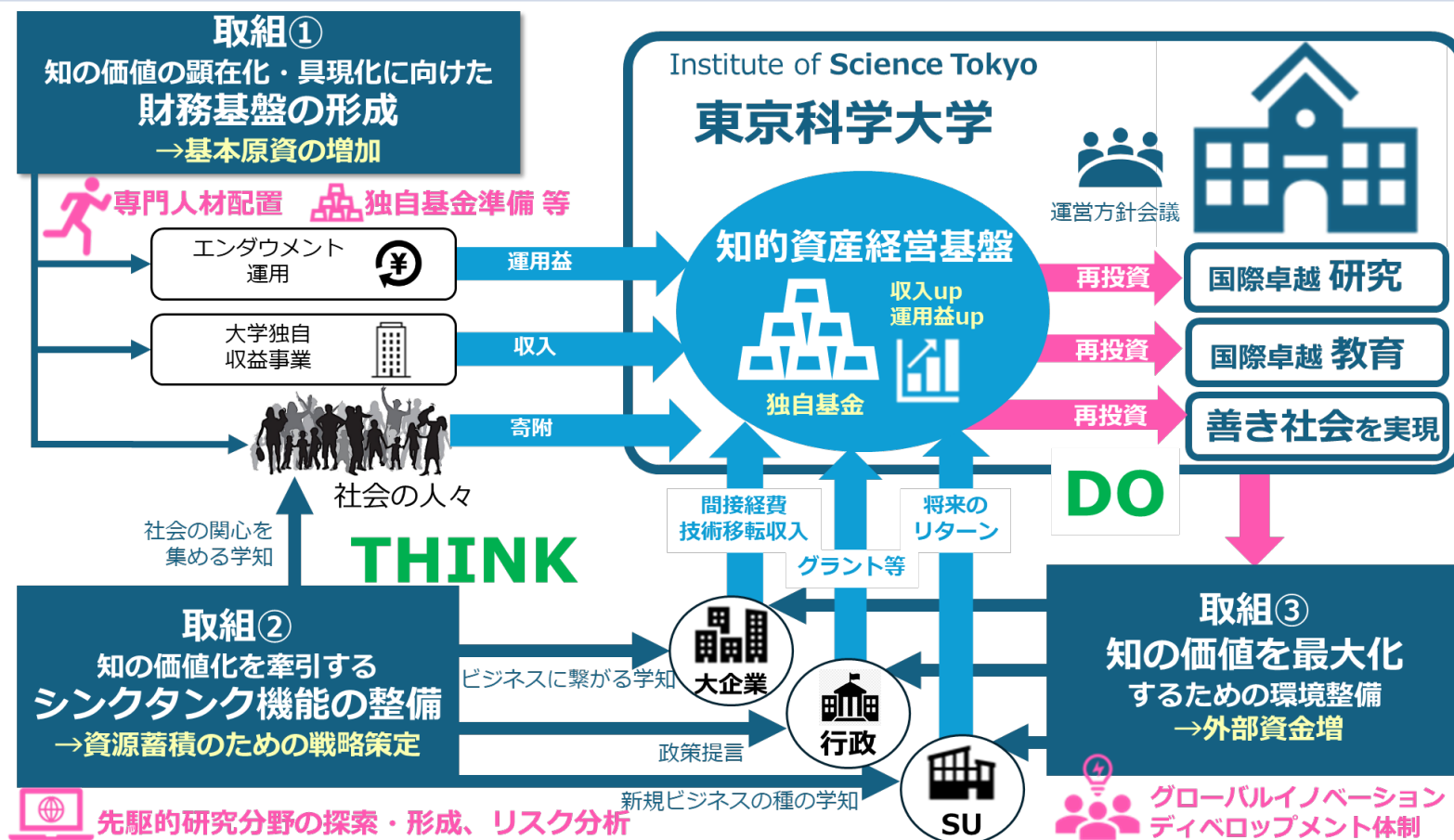
注：特許等知財権に基づく収入、マテリアル、医療情報等の提供、学術指導、企業会員制度、ラボ貸与等に基づく収入全般を対象

東京科学大学の経営改革構想：全体像

知的資産経営基盤に基づく好循環システムの実現

成果目標：知的資産経営基盤に基づく好循環システムの実現と財務基盤の飛躍的拡充

- 成長分野の推進を支える財務基盤（基金獲得・拡大体制の構築）
- 将来、成長発展が見込まれる先駆的研究分野の探索・形成（戦略立案のための分析）
- 新産業領域の創出、産業構造変革を導くイノベーションディベロップメント体制の確立



Science Tokyo：「善き生活、社会、地球をつくりあげる大学」へ